

最も難しい準備「自立」

昨日のメッセージに対して、三名の生徒から返信をもらいました。やはり、反応があるというのはうれしいことですね。全員が読まなくてもよいと思って書いてはいますが、自分のメッセージが相手に届き、それなりの波紋を生んだことがわかると感動します。さらに、その三名の返信を読むと、部活動についてしっかりと自分の考えをもっているとわかり、ダブルで感動しました。

「中学校は、世の中に出て自由に飛び回ることができるよう準備をするところ」という話を、半日入学の時にしましたね。そのために与えられた時間は三年。長いようで短い三年です。どうですか。確実に準備は進んでいますか。小学校時代とは違う自分づくりが進んでいますか。学年が一つ上がる前に、あなたが歩いてきた道のりを、振り返っておくとよいかもしれませんね。

準備というと、あいさつ、整理整頓、忘れ物ゼロ、時間行動などが頭に浮かんでくるのではないでしょうか。確かに、それらも大切な準備の中身です。大人になってもそれらに課題がある人は、社会で通用するのか不安になってきます。中学生であるうちに、それらについては胸を張れるようにしたいですね。

準備の中には、外に出てこないものもあります。これが最も難しい準備だと私は思います。外に出てこないから、見ただけではわかりません。一体、どんな準備だと思いますか。

それは「自立」です。読んで字の如し、「自ら（の脚で）立つ」ということです。あいさつができるからと言って、「自立」できているとは限りません。時間を守れているからと言って、「自立」できているね」と言い切ることはできません。「自立」で最も大切にしたいことは、「自」の部分です。

あなたはどのように起床していますか。家族に起こしてもらっていますか。自分で起きますか。前者だとしたら、結果として遅刻せずに登校できても、手放しでは喜べませんね。このように、時間行動という形はできても、その形を生み出す人間が、どのようにそれを生み出しているかが重要なのです。そこに「外に出てこない準備」というものがあります。

今のあなたは一人暮らしができるでしょうか。完璧にできなくてもよいのです。食事の準備や洗濯などは家族に甘えてもよいと思います。しかし、その一方で、家族に頼らない自分は、確実にできつつありますか。学校生活では、仲間に助けってもらう部分はあっても、自分で何とかしようという気もちが生まれていますか。

「自立」とは、「心の育ち」だと言い換えることができます。返信をくれた三名の文面を読むと、部活動についてブレない自分、甘い方向に流されない自分が、今の時点で準備できているとわかりました。こういう自分を作り上げることが、「主体性」の根幹を築くことになるといえるのだと私は思います。